

努力賞

まちがつてもだいじょうぶ

荒川区立尾久第六小学校二年

小林 梨乃

やなぎ田先生、わたしは、

『教室はまちがうところだ』を読みました。

ひょうしは、先生と子どもたちが、えがおで、ニコニコしていいなと思いました。

教室はまちがうところだというたい名を読んで、まちがいはわるくないんだと思いました。

先生が、

「それでいいのだ。いくどもいくどもおんなじことをくりかえしていくうちに言いたいことがいえるのだ。」

と言っていて本当にそうだと思います。

わたしも二じゅうとびができなかったときにしゅうしてだんだんできるようになるから、それといっしょのことが書いてあったので、うれしい気持ちになりました。

「まちがつたつてだれかなおしてくれるおしえてくれる。」

という言ばは、ありがとうという気持ちになるし、うれしいなと思いました。

わたしもわからないときは、先生や年上のもだちや、クラスのもだちが教えてくれます。

わたしも一年生がこまっていたら、教えてあげたいです。学校でもクラスでも、そういうふうに教えてあげたいし、教えてもらえたら、おたがいにいい気持ちになると思いました。

この本の先生は、「まちがえてもだいじょうぶだ

よ。」と言っていました。ニコニコ、やさしく言っていて、子どもたちがニコニコしていたので、わたしもし言われていたら、ニコニコの笑顔になると思います。

これから二学期が、はじまるので、わたしもたくさん手をあげたいです。

手をあげられなくてこまっている人がいたら、「まちがえてもいいんだよ。だいじょうぶだよ」と、やさしく声をかけたいです。

みんなが手をあげたり、なかよくしたり、やさしくしたりすると、ニコニコ、げん気なあかるいクラスになると思います。そんな二年にくみにしたいです。